

# 「安全革命」を起こし 事故のない世界をめざす

株式会社 WacWac

ゴーグル等を着用することで、視界の360度が仮想現実で補充される「VR」。仮想現実に入ると感覚を得ることができ、さまざまな分野で活用されています。

株式会社 WacWac は、このVRを活用した安全運転教育システムを展開しています。果たしてそのシステムとはどういったものなのか、安全運転教育の最前線取材しました。

## VRの活用で効率的かつ効果的な教育を実現

当社は2020年に創業し、VRを活用した安全運転教育システムである「らくらく監査システム（トラック版）」をリリースしています。

このシステムは、貨物自動車運送事業者が運転者に対して行わなければならない指導及び監督（いわゆる「法定12項目」の準備・実施・管理を自動化できるサービスです。教育の内容をVRで表現することで、運転者にわかり

やすく伝わります。また、運転者が空き時間に一人で教育を受けることができ、各運転者の教育実施状況は管理者がクラウド上で一括管理するといった形で効率化を実現しています。

くわえて、トラックの運転を疑似体験し、安全運転のポイントを学べるヒヤリハット・事故動画も収録しており、現在95動画をラインナップしています。動画はリアルさを追及するため、スタントマンや実車を用意して撮影しています。

法定12項目は毎年新作に更新、ヒヤリハット・事故動画は随時追加していくことで、マンネリ感なく教育に取り組んでいただくことができます。

## 教育の非効率さの実体験がシステム開発のきっかけ

私は以前、運送会社の配車マンとして勤務していました。100名の運転者を管理するなかで、義務である安全教育をしなければならぬという非常

に難しい現実がありました。

当時は、運転者を集めて読み聞かせる教育手法をとっていました。ですが、運転者の帰社時間はバラバラで、早く帰ってきた運転者を待たせたり、体調不良や休暇等で欠席している運転者の教育を別で実施しなければならなかったりして、運転者・管理者双方にとって非効率となっていました。



株式会社 WacWac  
代表取締役 佐々木 章太 氏  
<https://wacwac-service.jp/>



いました。このような状況では十分な安全教育ができず、とすれば手も回らないというのが実情であり、そうした課題を解決したいという思いで始めたのがこのシステムです。システムを導入いただいた事業者様にお話を伺っても、同じ課題を抱えておられるケースは非常に多い印象です。

いわゆる物流の2024年問題で、運転者の拘束時間の制限が厳しくなるなか、教育のために待ち時間が発生すると、運転できる時間も減ってしまいます。

このシステムを導入することで、運転者は待ち時間に教育を受けることができ、運転時間を確保することができ、また、管理者は教育のための準備・実施・管理が自動化できるため、業務効率化により、「実施したくてもできなかった教育」が確実に実施できるようになります。

システムを導入いただいた事業者様



VRゴーグル着用イメージ

のなかには、事故の6割削減を実現されたケースもあります。また、安全教育にかなり力を入れられていたにもかかわらず、年間約8件事故が発生して、5年間横ばいであった事業者様は、2年連続で事故を1件に減らすことができました。

## 事故削減が最大のセールスポイント

このシステムは、事故削減につながるというのが最大のセールスポイント



VR教育画面のイメージ。顔を動かせば360度全方位が映像で補完されている。スタントマンや実車によるリアリティあふれる仕上がりとなっている

です。安全教育の効率化というのも売りの一つではありますし、それを求めて導入される事業者様もおられます。

ですが、安全教育は事故を削減するためにやるものであり、手段が目的になつてはいけなく、常々考えています。

「事故防止のために行う安全教育の確実な実施と効率化」を手助けするシステムだとお考えいただければと思います。

また、このシステムの法定12項目の内容は、国土交通省にも「教育要領に不足はない」というフィードバックを頂いておりますが、これだけで安全教育が完璧に行えるものではない、ということはお伝えしたいです。

導入いただいた事業者様へは、国土交通省の指針に沿った運輸安全マネジメントの徹底と、国土交通省・各適正化機関のご助言を実際の現場で実現するためのご提案をさせていただいております。

今後の展開としては、トラック版以外にフォークリフト版もすでにリリースしているほか、乗用車版もリリースに向けて準備をすすめているところであります。また、トラック版も、トレーラーを使うなどバリエーションを増やすほか、外国人運転者の増加に備えて、外国語版の作成といった展開もできればと考えています。

今後も、事故のない世界へ「安全革命」を起こすべく、邁進してまいります。